

開催地名	長野県安曇野市
開催日時	令和6年2月17日(土) 14:00～15:30
開催場所	安曇野市豊科公民館 ホール
語り部	草 貴子 (宮城県仙台市)
参加者	自主防災組織、消防団、市議会議員、市職員、地域住民 232名
開催経緯	<p>安曇野市は糸魚川ー静岡構造線断層帯(北部・中北部)に位置し、近い将来に大規模な地震の発生が想定されている。また、複数河川の合流地点があり、近年の異常気象も相まって水害リスクが高い状態である。</p> <p>一方、近年は大きな災害に見舞われた経験がなく、防災訓練や出前講座等により災害への備えを啓発しているものの、当事者感が薄く、防災意識が低くなっていることが課題である。</p>
内容	<p>(1) 震災までの生活</p> <p>仙台市泉区は、人口21万3千人の政令都市仙台の副都心である。私の運営している町内会は平成20年度に設立し、メンバーは働き盛りの40代、単身赴任の家庭が多い中で、自然と女性が立ち上がって出来た組織である。役員9名は全員女性、集会所設立のために銀行ローンを組んだということは、仙台市初の異例の試みであった。完成した集会所は緊急時の避難場所として強く認識されると想定しオール電化の導入、トイレを二箇所設置、また収納の高さを女性の腰の高さに合わせるなど、様々な工夫を凝らしながら、そして身の丈にあった町内会作りを目指した。</p> <p>(2) 震災時の状況と対応</p> <p>3月11日14時36分、近所の家電量販店で買い物の途中、立ってられない程の強い揺れがあり、ガラスが割れ天井が落ちる中、夢中で外に飛び出した。自宅に帰る途中に、集会所近くの公園に人だまりができていた。女性や子供を中心に、約100人が避難していた。避難者の大半は、町内会に入会していないマンションの住民であったが、全員受け入れることにした。避難者の中からリーダー、副リーダーを決めてもらい、町内会はサポートする形で運営に参加した。電気は2～3日、水道は3～4日、ガスは1ヶ月で復旧された。支援物資の引取で支援を受けたのは、12日13日の2日間だけであり、その後は各家庭からの物資で対応することとなった。</p> <p>平成25年に市名坂小学校区避難所運営委員会が発足した。地域の20の組織団体で構成され、私は初代事務局長として皆さんとともに世代や性別、社会情勢に合った訓練を実施している。</p> <p>例えば、避難所では「マナー5箇条」というルールを掲げた。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1つ:「ビブス」を着用した係員の指示に従う事 2つ:お互いに思いやりの気持ちを持つ事 3つ:自分勝手な振る舞いは控え、他人に協力をする事

4つ：弱者（乳幼児・障害者・高齢者）には、より一層目配り気配り心配りをする事
5つ：気分が悪い時には、すぐに申し出る事
としている。

（3）まとめ

被災地である当地であっても、震災時の経験がない方も増えたことや風化されつつあることから、「楽しく防災訓練！」等と取り組む姿勢にも変化がみられてきた。一方で、未だ悲しみが癒されていない、ふとしたきっかけで涙が止まらない、等の方も多し。

多くの方の気持ちを汲みながら、より実践的で効果的な訓練を行うこと、一個人でも防災と減災を考えることを念頭に、前に進んでいきたい。



開催地より

東日本大震災での経験談から現在の取り組み内容までを具体的にお話しいただいた。特に避難所運営委員会の訓練の様子や、女性コーディネーター部門の設立など、実際の被災経験から取り入れている視点は重要であり、参考になった。

改めて今の自分ができることや組織での備えについて考えるきっかけとなったので、今後も防災意識を高め、自助・共助の考えが進むような活動に取り組みたい。